

米国金融政策（2025年1月FOMC）

政策金利の据え置きを決定

2025年1月30日

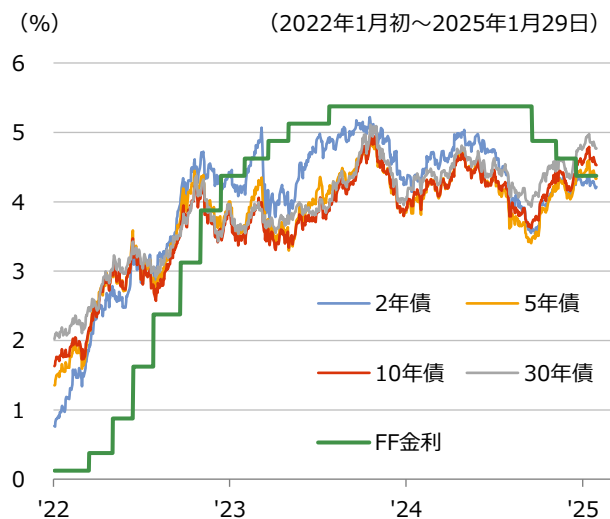
追加利下げを急がず、当面は様子見スタンスに

FRB（米国連邦準備制度理事会）は1月28日～29日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを4.25～4.50%で据え置くことを決定しました。また、保有証券の縮小ペースは国債で月額250億米ドル、住宅ローン担保証券で月額350億米ドルとの方針も維持しました。

声明文に目立った変化はなく、「追加的な調整の程度と時期を検討する上で」、委員会はデータやリスク・バランスを慎重に精査していく旨が引き続き示されています。パウエルFRB議長は「政策調整を急ぐ必要はない」とし、トランプ政権の主要政策について「明瞭になるのを待つ必要がある」と指摘するなど、当面の様子見姿勢を示唆しました。また、追加利下げを検討するに際して、「インフレ抑制の進捗を示唆する一連の結果が欲しい」と述べました。

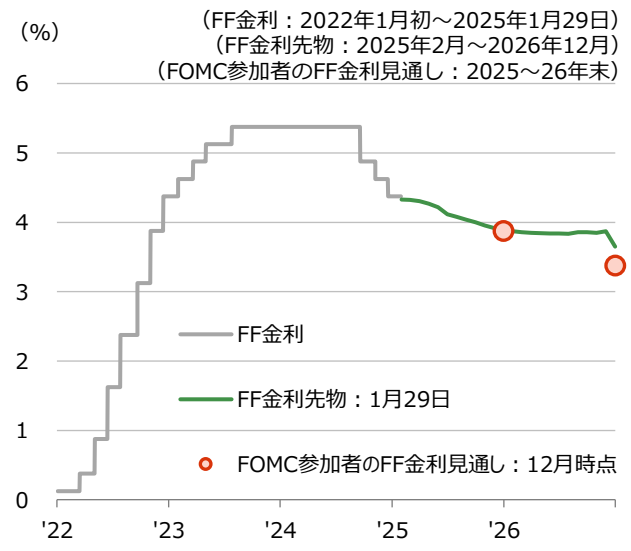
想定通りの結果だったことから、FOMC直後の金融市場の反応は総じて限定的でした。FF金利先物によれば、次回の利下げは6月の可能性が高く、年内2回弱の利下げが織り込まれています。足元ではトランプ政権の関税政策を巡る報道が相次いでいるほか、個人所得税減税の延長を巡る議論も共和党内で行われつつある模様です。追加利下げの是非ならびに時期については、データもさることながら、各種政策が経済見通しに及ぼす影響を精査していくことになるでしょう。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。